

主な内容

- 2・3面
・決算特別委員会
- 4～7面
・一般質問
・常任委員会審査報告
・特別委員会中間報告
- 8面
・陳情
・議決結果一覧



▲平成27年9月に完成した「公営 稲城・府中メモリアルパーク」

平成28年第3回定例会

平成27年度各会計の決算を認定

一般会計決算歳出総額953億円

平成28年第3回市議会定例会は、9月2日から30日までの29日間の会期で開催されました。
市長提出議案は、平成27年度府中市一般会計歳入歳出決算の認定についてなど27件を審議した結果、可決14件、認定7件、可決及び認定1件、同意4件、承認1件となりました。委員会提出議案は1件を審議した結果、可決、議員提出議案は3件を審議した結果、可決1件、否決2件となりました。
また、陳情8件が審議されました。

平成27年度の決算は、一般会計歳入歳出予算額1018億6849万8000円に対し、歳入決算額は998億4122万7000円、執行率は98・0%、歳出決算額は953億1407万3000円で、執行率は93・6%です。

その結果、歳入歳出差引額は、45億2715万3000円となり、このうち1億円については法の規定により財政調整基金に編入をしています。

この議案の提案に当たり、市長から「歳出では、生活保護費を初めとする社会保障経費や公共施設の老朽化対策に関わる経費の増加により予算を許さない財政状況であったが、市税のほか地方消費税交付金などの歳入増により、現状と先を見据えた予算の配分を行いながら、行財政改革を推進し、健全な財政運営に努めた。

27年度における施策の主な成果としては、市民協働都市宣言を踏まえ、市民協働推進月間を設定するとともに、市民協働実感イベントを実施したほか、小・中学校等の公共施設の老朽化対策、消防団ポンプ車の更新や防災資材の整備といった防災対策、待機児童解消に向けた私立保育所の整備を行うなど、市民が安全・安心に暮らせるための行政サービスの提供に努めた」との説明がありました。

9月21日から28日までの5日間で開催された決算特別委員会において慎重な審査をし、9月30日の本会議で賛成・反対討論が行われ、採決の結果、賛成多数で平成27年度一般会計歳入歳出決算は認定されました。

意見書

◎次期介護保険制度改正において、「要介護1・2」の生活援助給付等の見直しの検討を慎重に行うことを求める意見書

平成27年における介護保険制度の改定では、予防給付の訪問介護と通所介護の地域支援事業への移行が決まり、30年に本格実施される。

しかし、その効果の検証も待たずに、次期介護保険事業計画に向けた制度改正の議論の中で、要介護1・2の被保険者に対する給付の見直しの検討が始まっていることに市民は大きな不安を抱いている。政府の掲げる介護離職ゼロも、在宅サービスが拡充し、早期に適切なサービスにつなげられる基盤整備があつてこそ実現する。

よって、本市議会は、国会及び政府に対し、要介護1・2の被保険者の生活援助給付等の見直しの検討は慎重に行うよう要望する。

(関連記事8面)

◎国会における憲法論議の推進と広く国民的議論の喚起を求める意見書

日本国憲法は、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重の三原則のもと、我が国の発展に重要な役割を果たしてきた。この三原則こそ現憲法の根幹をなすものであり、今後も堅持されなければならない。現在、我が国をめぐる内外の諸情勢に大きな変化が生じていることに鑑みれば、憲法は、国家の基本法として我が国の直面する諸課題に的確に対処できることが求められる。国会でも、平成19年の国民投票法の成立に伴い、憲法審査会が設置され、憲法論議が始められている。

よって、本市議会は、国会等に対し、憲法について活発かつ広範な議論を推進するとともに、広く国民的議論を喚起するよう強く要望する。

人事議案

定例会最終日の本会議に市長から教育委員会委員の任命の同意を求め、議案とオンブズパーソンへの委嘱の同意を求める議案が提出され、次の方々が同意されました。

教育委員会委員

那須 雅美 氏 (53歳)

松田 努 氏 (46歳)

オンブズパーソン

市川 千秋 氏 (67歳)

部谷真起子 氏 (53歳)